

F-8 仙台市居住者における老化現象の職業有無・収入有無別比較(カ8報)
代表者 後藤たへ ○西条まつ文

目的 カ6報と同じ対象者を職業有無別及び収入有無別に分類し、それぞれ老化度と項目評定を求めた。

方法 カ2報に準じて行った。

結果 全標本からみた場合、1.職業有無別で、総合・機能・外見の老化度はすべて職業無の方が大であった。どの部門に対しても機能老化度は最小値を、精神意識老化度は最大値を示す傾向にあった。2.職業有の男女間では女の老化度は大であり、職業無においてはどの部門にも男女の有意差がみられなかった。3.収入有無別、収入有の男女別で外見老化度においてのみ差がみられ、項目別にみると、すべて背椎く色素斑く目く皮膚く歯の傾向にあった。

各グループに分類した標本からみた場合、1.職業有の男女間では、総合・精神意識老化度で女が高い値を示し、機能く外見く総合く精神意識の傾向にあり、職業無では差がみられなかった。2.収入有の男女間では、外見老化度のみに差がみられ、女が大であり、収入無では差がみられなかった。

尚 この研究は宮城学院女大・宮城教大・尚絅短大・仙台白百合短大の研究員の共同研究によるものである。